

「北海道から見た広域圏の成長の課題について」2009. 7. 29

いくつかのキーワードをまじえて

1. 北海道指標

- 面積 20%…韓国の 8 割、台湾の二倍、九州の二倍、
- 人口 44%強…札幌圏一極集中 40%、道央圏以外人口減少・
- 農業生産所得 33%、海面漁業水揚高 30%弱、食料自給率 200%以上
- 製造業出荷額 2%弱、茨城県の二分の一、豊田市の二分の一、食料品特化
- 観光…1999 年以降減少、激しい季節繁閑、航空輸送力の制約、温泉宿泊者日本一
- 所得…昔トップテン並み、今や 40 位以下、全国を大きく下回る求人倍率

2. 北海道に関する誤解

- 疲弊した経済、低い所得
- 厳しい冬、町を歩くヒグマ
- フロンティア精神、ボーイズビーアンビシャス
- 世界一の航空路線 新千歳・羽田
- 函館は札幌の隣

3. 魅力ある北海道

- 快適空間
- 優れた都市インフラ
- 食の安全、安心、安定
- 異質・高質な景観
- 日本語が通じる海外、開放的な道民気質
- 低コスト社会

4. 課題と展望

- 十分活かされていないインフラ…14 空港、道路、港湾、都市基盤
- 離島性…新幹線ネットワーク接続未完、高速道路接続せず
- 国際的な閉鎖性…外国人登録数全国最低、出国率全国の半分以下
- 非競争社会…地域間競争に無縁
- 札幌でシンポジウムが何故多いか検証するシンポジウムが必要
- 情報不足…すべてはすすきのプロジェクト

- 次世代産業の集中を…医薬品・医療機器、医療技術、航空機整備・部品
- アジアの高質食料基地に
- ロシアへの技術支援機能拡充へ
- 新世代「屯田兵」による北海道遊休未利用基盤の再開発へ
- 東アジアのリゾートゾーンへ

第2回広域自立・成長政策委員会

<参考資料>

平成21年7月29日

北海道国際航空株式会社

目次

AIR DO

1. 支庁別管内人口の変化	P. 1
2. 地域別工業品出荷額シェアの推移	P. 2
3. 北海道観光入込の動向	P. 3
4. 旭山動物園効果	P. 4
5. 羽田～主要路線 91/08年度比較	P. 5
6. 羽田～北海道主要路線 実績推移	P. 6
7. 新千歳発着 道外路線 実績推移	P. 7
8. 新千歳+丘珠発着 道内路線 実績推移	P. 8
9. 新規航空会社概要	P. 9
(参考1) 会社概要	P. 10 ~ 11
(参考2) 事業方針	P. 12
(参考3) 路線便数、保有機材変遷	P. 13
(参考4) 輸送実績、収支状況	P. 14
(参考5) 事業展開	P. 15 ~ 17
(参考6) 路線別旅客数推移	P. 18 ~ 19
(参考7) 「北海道の翼」としての取り組み	P. 20

1. 支庁別管内人口の変化(1947/1995/2005年)

AIR DO

(単位：人)

支庁 \ 年	1947	構成比(%)	1995	構成比(%)	2005	構成比(%)
石狩	446,585	11.6	2,154,646	37.9	2,310,015	41.1
渡島	442,618	11.5	474,096	8.3	449,435	8.0
檜山	92,514	2.4	57,642	1.0	46,996	0.8
後志	359,330	9.3	274,893	4.8	250,066	4.4
空知	659,980	17.1	404,808	7.1	365,594	6.5
上川	446,318	11.6	553,812	9.7	535,480	9.5
留萌	122,256	3.2	70,403	1.2	61,494	1.1
宗谷	94,430	2.5	86,378	1.5	75,668	1.3
網走	347,073	9.0	346,546	6.1	324,849	5.8
胆振	247,178	6.4	445,024	7.8	423,639	7.5
日高	93,409	2.4	89,937	1.6	81,407	1.4
十勝	259,663	6.7	357,126	6.3	354,146	6.3
釧路	179,593	4.7	287,643	5.1	261,891	4.7
根室	61,869	1.6	89,367	1.6	84,057	1.5
計	3,852,816	100.0	5,692,321	100.0	5,624,737	100.0

出所：国勢調査（総務省）

2. 地域別工業品出荷額シェアの推移

AIR DO

(単位：%)

地域 \ 年	1957 (昭和32)	1970 (昭和45)	1980 (昭和55)	2000 (平成12)	2005 (平成17)
北海道	2.9	2.2	2.4	2.0	1.9
東北①	3.3	3.1	4.1	6.0	5.7
北関東②	3.1	5.1	6.9	8.8	9.1
首都圏③	26.3	29.6	26.6	21.9	19.0
東海④	16.2	16.7	17.6	21.3	24.1
(内 静岡)	(3.6)	(4.0)	(4.4)	(5.5)	(5.9)
近畿⑤	25.7	22.8	19.1	16.4	15.5
(内 京都、滋賀、奈良)	(3.3)	(3.7)	(3.8)	(4.9)	(4.5)
瀬戸内⑥	8.0	8.8	9.7	8.0	9.0
九州⑦	7.6	5.0	6.2	6.7	7.0
(内 福岡)	(4.6)	(4.6)	(2.4)	(2.4)	(2.6)
その他共 全国	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
工業製品出荷額	(1960) 155,786	690,348	2,146,998	3,035,824	2,981,253

出所：地理データファイル2007年度版（帝国書院）

- 注) ①青森・秋田・岩手・宮城・山形・福島 ②茨城・栃木・群馬 ③東京・千葉・神奈川・埼玉
 ④静岡・愛知・岐阜・三重 ⑤大阪・兵庫・和歌山・京都・滋賀・奈良
 ⑥岡山・広島・山口・愛媛・香川 ⑦沖縄を含む

- 参考) 1. 1957年とは経済白書が「もはや戦後ではない」とうたった1956年（昭和31年）の翌年。
 2. 戦前の1909年の近畿のシェアは39.0%であり、我が国の工業生産の多くを占めていたが、1950年には25.6%、2005年には15.5%まで低下した。

3. 北海道観光入込みの動向

■ 年度推移

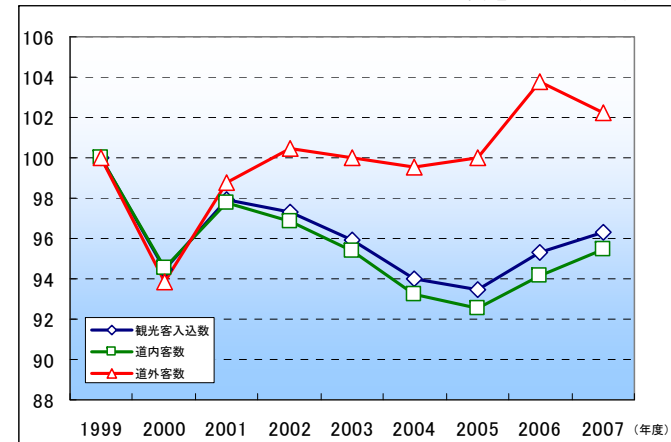
(単位：万人)

項目 \ 年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	増減率 (1999→2007)
観光客入込数	5,149	4,862	5,041	5,009	4,939	4,839	4,813	4,909	4,958	96.3%
道内客	4,514	4,266	4,414	4,370	4,304	4,207	4,178	4,250	4,309	95.5%
うち日帰り客	3,584	3,393	3,504	3,495	3,439	3,346	3,334	3,393	3,532	98.5%
うち宿泊客	931	873	911	875	865	861	844	857	777	83.5%
道外客	635	596	627	638	635	632	635	659	649	102.2%
うち日帰り客	3	3	3	3	2	2	2	2	2	66.7%
うち宿泊客	632	593	624	635	633	630	633	657	647	102.4%

出所：北海道観光入込客数調査報告書

■ 年度指数推移

※ 1999年度を100とする。



出所：北海道観光入込客数調査報告書

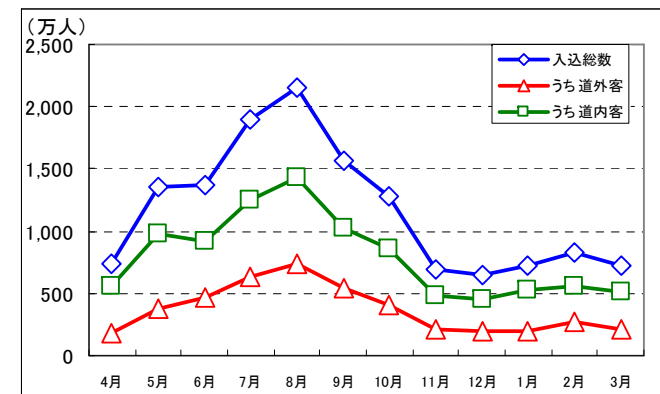
■ 年度推移 (道外客)

(単位：万人)

項目 \ 年度	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	増減率 (1999→2007)
道外客	635	596	627	638	635	632	635	659	649	102.2%
うち日本人	615	576	604	611	606	590	584	600	578	94.0%
うち外国人	20	20	23	27	29	42	51	59	71	355.0%
台湾	12	10	11	13	11	20	27	26	27	225.0%
韓国	1	1	2	4	6	6	7	13	16	1600.0%
香港	2	2	4	5	5	8	8	8	10	500.0%
オーストラリア	0	0	0	0	0	1	1	2	3	1000.0%
その他	5	7	6	5	7	7	8	10	15	319.1%

出所：北海道観光入込客数調査報告書

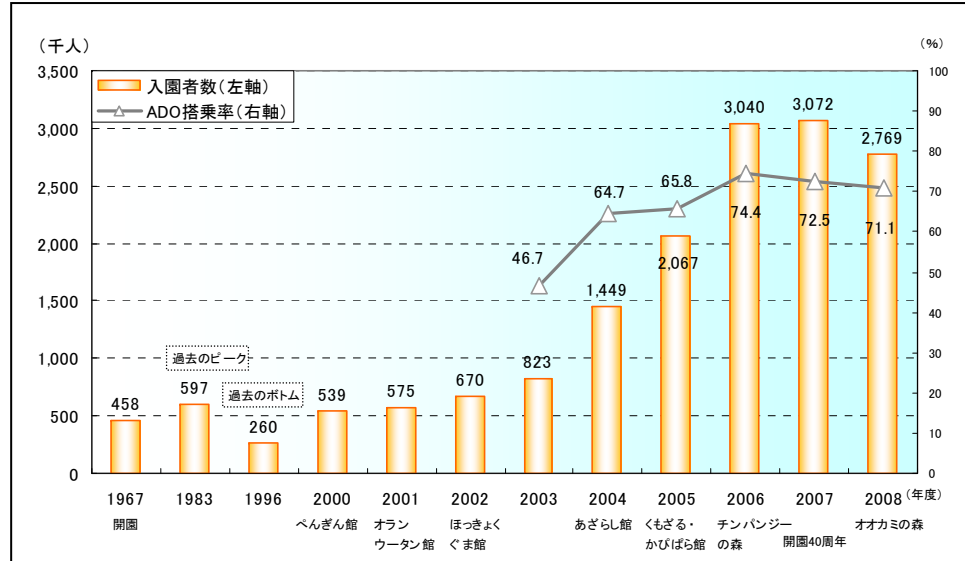
■ 2007年度 月別推移 (延べ人数)



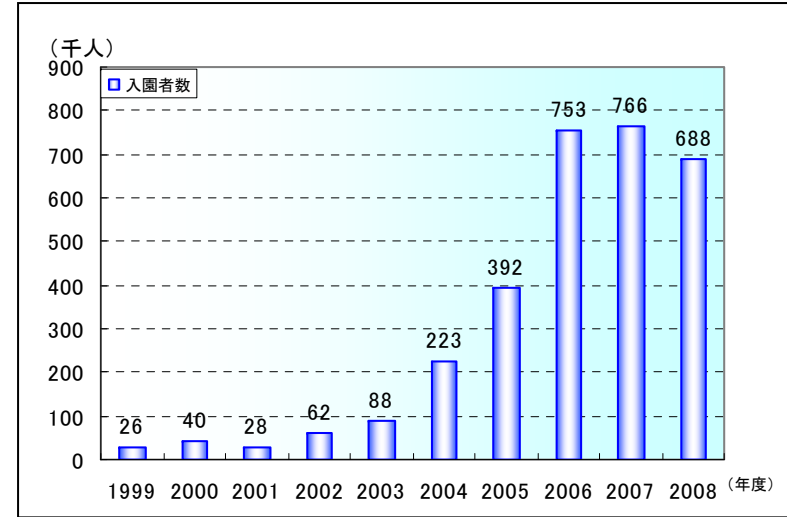
出所：北海道観光入込客数調査報告書

4. 旭山動物園効果

旭山動物園入園者数 年度推移



旭山動物園冬季入園者数 年度推移



出所：旭川市旭山動物園HP

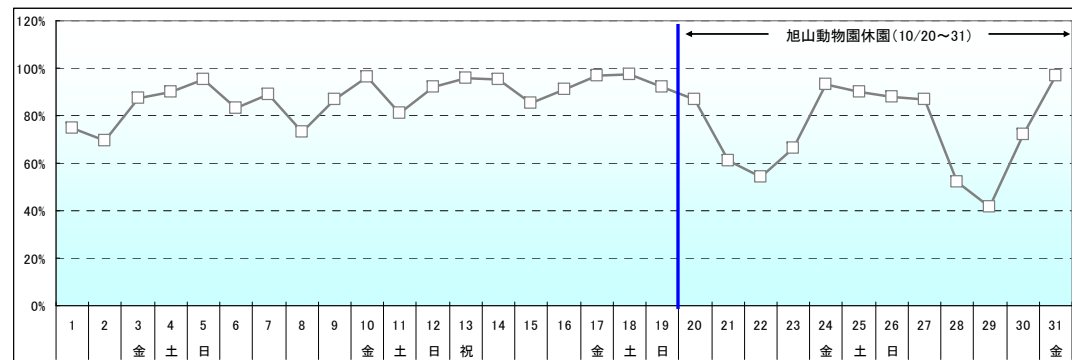
北海道市町村 観光入込状況

(単位：万人)

順位	2003年度		2007年度	
	市町村	入込客数	市町村	入込客数
1	札幌市	1,368	札幌市	1,378
2	小樽市	800	小樽市	741
3	函館市	525	旭川市	733
4	旭川市	394	千歳市	559
5	喜茂別市	350	函館市	482
6	虻田町	336	釧路市	377
7	登別市	332	洞爺湖町	338
8	上川町	257	登別市	330
9	釧路市	252	喜茂別町	300
10	富良野市	246	上川町	250

出所：北海道観光入込客数調査報告書

ADO旭川線搭乗率 (2008年10月)



※ 搭乗率は当社販売分

5. 羽田～主要路線 91／08年度比較

■ 羽田～北海道

			1991	2008	伸び率
羽田～新千歳	1日あたり便数	便	33	50	151.5%
	旅客数	千人	7,871	9,458	120.2%
	座席数	千席	10,753	14,116	131.3%
	座席利用率	%	73.2	67.0	▲6.2
羽田～函館	1日あたり便数	便	7	7	100.0%
	旅客数	千人	1,221	1,115	91.3%
	座席数	千席	1,737	1,645	94.7%
	座席利用率	%	70.3	67.8	▲2.5
羽田～旭川	1日あたり便数	便	5	10	200.0%
	旅客数	千人	597	1,017	170.4%
	座席数	千席	811	1,597	196.8%
	座席利用率	%	73.6	63.7	▲9.9
羽田～釧路	1日あたり便数	便	5	5	100.0%
	旅客数	千人	463	502	108.4%
	座席数	千席	729	841	115.3%
	座席利用率	%	63.5	59.7	▲3.8
羽田～帯広	1日あたり便数	便	4	4	100.0%
	旅客数	千人	366	501	136.9%
	座席数	千席	476	819	172.0%
	座席利用率	%	76.9	61.2	▲15.7
羽田～女満別	1日あたり便数	便	3	6	200.0%
	旅客数	千人	261	481	184.3%
	座席数	千席	348	772	221.6%
	座席利用率	%	74.9	62.3	▲12.6

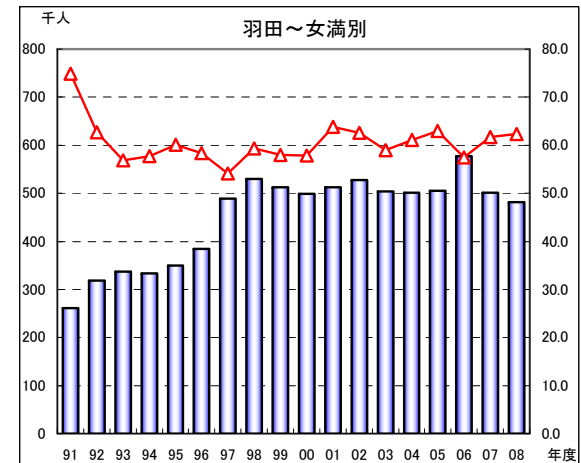
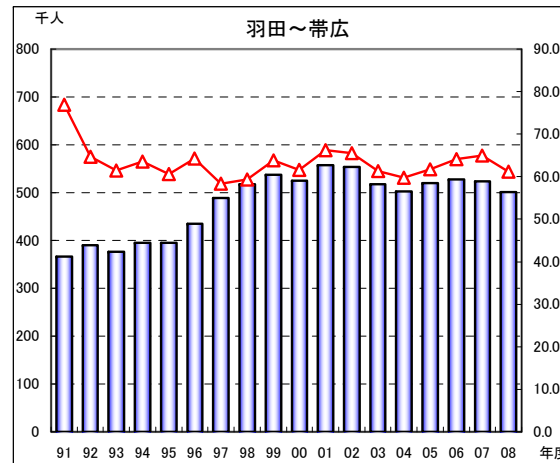
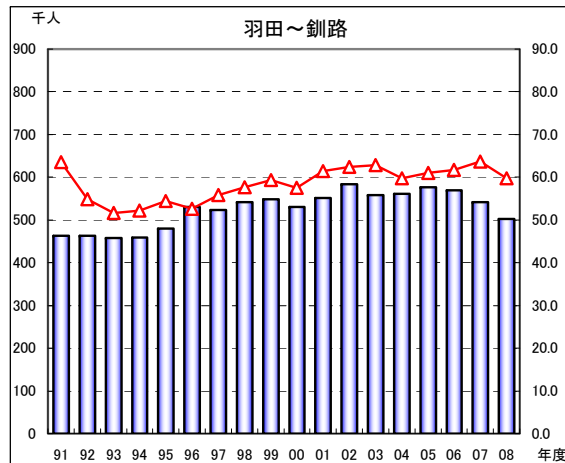
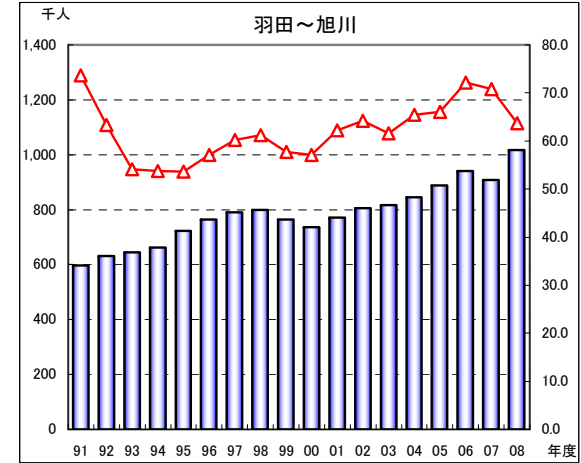
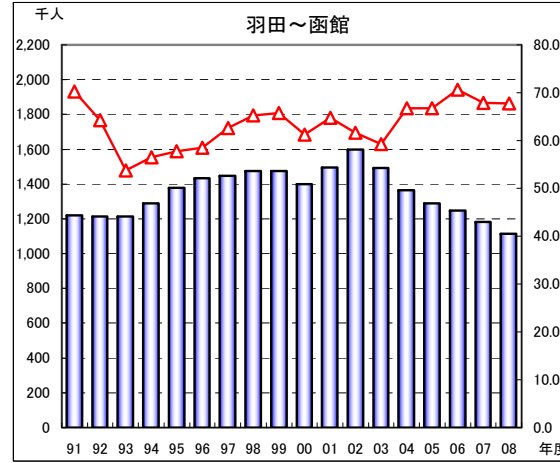
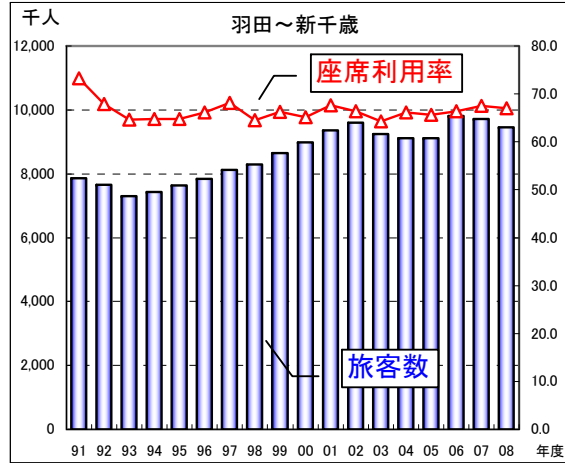
■ 羽田～西日本

			1991	2008	伸び率
羽田～福岡	1日あたり便数	便	27	46	170.4%
	旅客数	千人	5,684	8,035	141.4%
	座席数	千席	7,765	12,098	155.8%
	座席利用率	%	73.2	66.4	▲6.8
羽田～那覇	1日あたり便数	便	10	24	240.0%
	旅客数	千人	2,367	5,443	230.0%
	座席数	千席	3,283	7,770	236.7%
	座席利用率	%	72.1	70.1	▲2.0
羽田～広島	1日あたり便数	便	11	15	136.4%
	旅客数	千人	1,688	2,235	132.4%
	座席数	千席	2,218	3,727	168.0%
	座席利用率	%	76.1	60.0	▲16.1
羽田～鹿児島	1日あたり便数	便	8	16	200.0%
	旅客数	千人	1,674	2,273	135.8%
	座席数	千席	2,271	6,547	288.2%
	座席利用率	%	73.7	64.1	▲9.6
羽田～小松	1日あたり便数	便	7	11	157.1%
	旅客数	千人	1,503	1,755	116.8%
	座席数	千席	2,015	2,826	140.3%
	座席利用率	%	74.6	62.1	▲12.5
羽田～松山	1日あたり便数	便	9	10	111.1%
	旅客数	千人	1,192	1,420	119.1%
	座席数	千席	1,681	2,243	133.4%
	座席利用率	%	70.9	63.3	▲7.6

			1991	2008	伸び率
羽田～熊本	1日あたり便数	便	7	16	228.6%
	旅客数	千人	1,144	1,827	159.7%
	座席数	千席	1,632	2,782	170.5%
	座席利用率	%	70.1	65.7	▲4.4
羽田～長崎	1日あたり便数	便	7	12	171.4%
	旅客数	千人	1,104	1,439	130.3%
	座席数	千席	1,584	2,283	144.1%
	座席利用率	%	69.7	63.0	▲6.7
羽田～宮崎	1日あたり便数	便	7	17	242.9%
	旅客数	千人	926	1,393	150.4%
	座席数	千席	1,258	2,186	173.7%
	座席利用率	%	73.6	63.7	▲9.9
羽田～大分	1日あたり便数	便	6	11	183.3%
	旅客数	千人	864	1,181	136.7%
	座席数	千席	1,174	1,979	168.6%
	座席利用率	%	73.6	59.7	▲13.9
羽田～高松	1日あたり便数	便	7	8	114.3%
	旅客数	千人	832	789	94.8%
	座席数	千席	1,216	1,252	102.9%
	座席利用率	%	68.4	63.0	▲5.4
羽田～徳島	1日あたり便数	便	5	6	120.0%
	旅客数	千人	572	698	122.0%
	座席数	千席	780	1,147	147.0%
	座席利用率	%	73.3	60.8	▲12.5

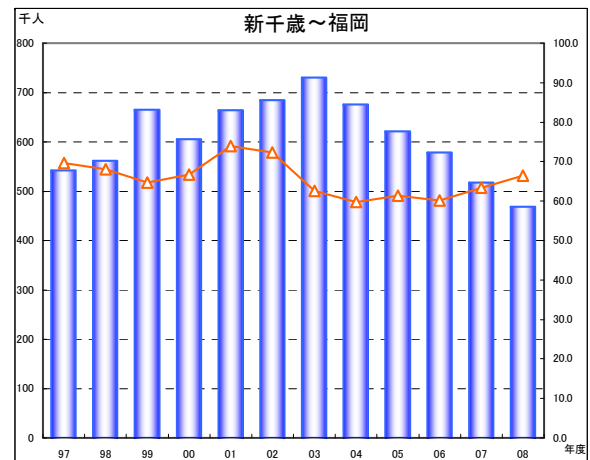
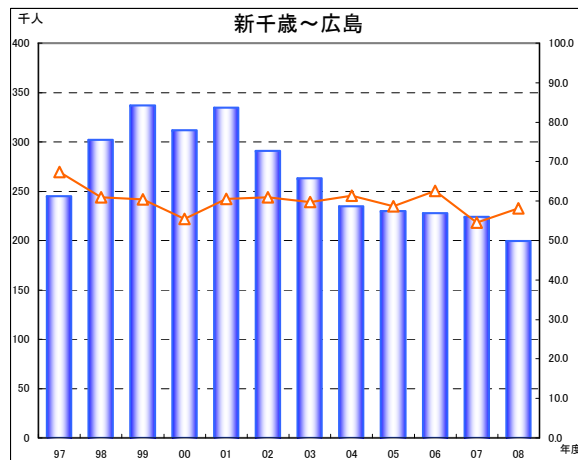
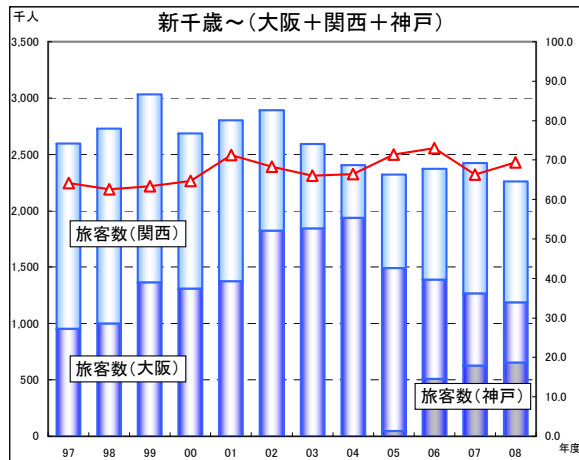
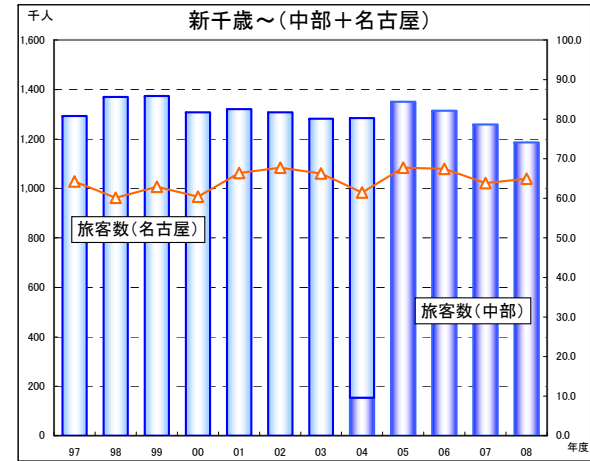
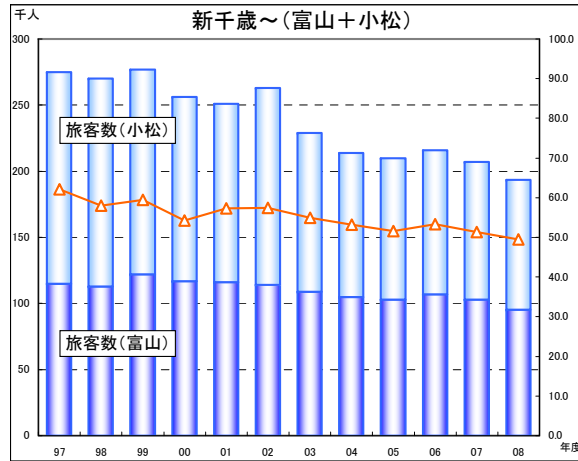
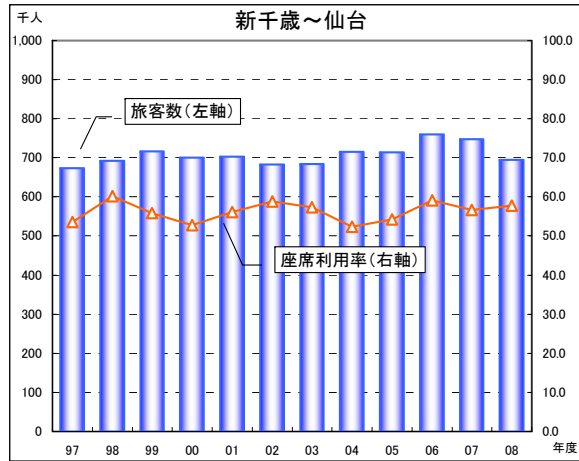
出所：数字でみる航空、航空統計要覧

6. 羽田～北海道主要路線 実績推移



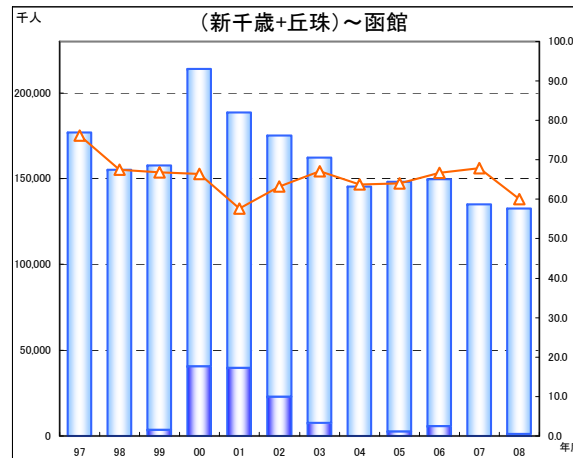
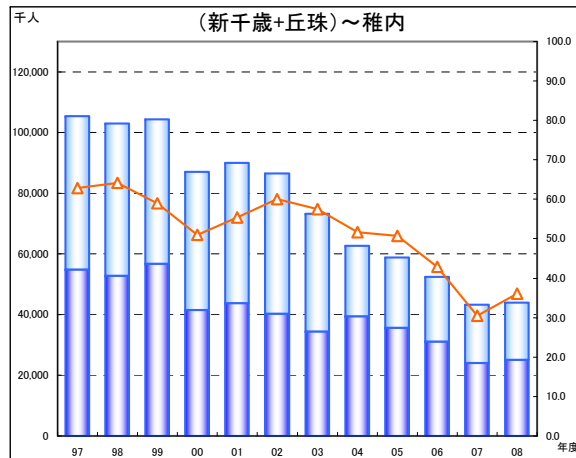
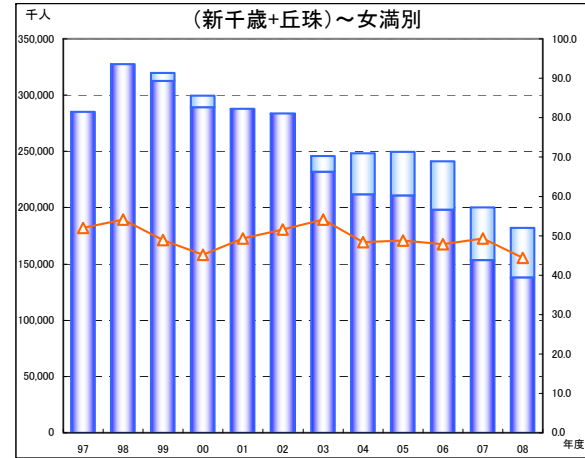
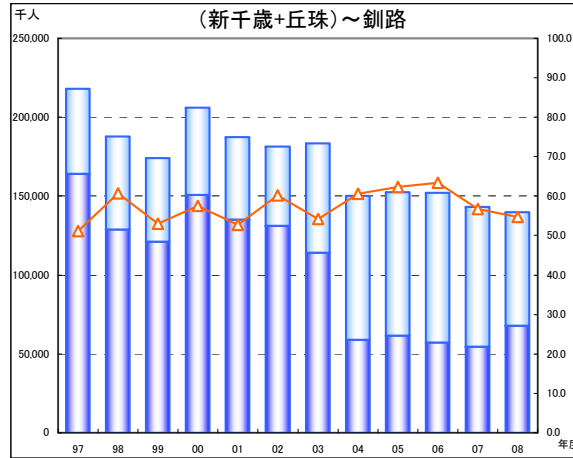
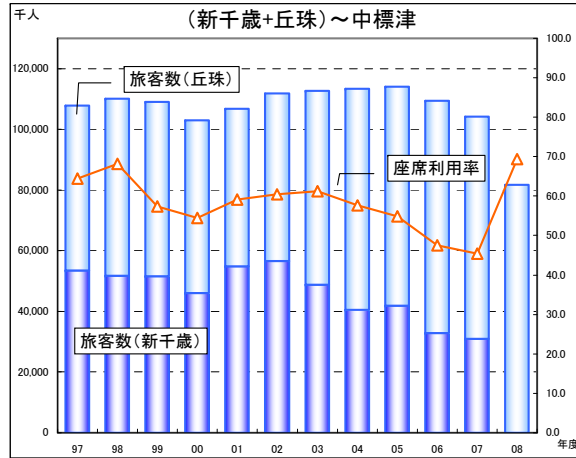
出所：数字でみる航空、航空統計要覧等

7. 新千歳発着 道外路線 実績推移



出所：数字でみる航空、航空統計要覧等

8. 新千歳+丘珠発着 道内路線 実績推移



出所：数字でみる航空、航空統計要覧等

9. 新規航空会社概要

AIR DO

	北海道国際航空 	スカイマーク 	スカイネットアジア航空 	スターフライヤー 	
就航年月	1998年12月	1998年9月	2002年8月	2006年3月	
本社所在地	北海道札幌市	東京都大田区	宮崎県宮崎市	福岡県北九州市	
資本金	23億2,505万円 (2009年4月1日現在)	47億7,746万円 (2009年5月14日現在)	19億3,435万円 (2009年4月1日現在)	58億3,359万円 (2009年5月14日現在)	
従業員数	703名 (2009年3月31日現在)	1,093名 (2009年5月14日現在)	491名 (2008年9月30日現在)	429名 (2008年1月1日現在)	
主要株主	(株)日本政策投資銀行 全日本空輸(株) 双日(株)	西久保 慎一 (株)エイチ・アイ・エス オリックス(株)	宮交エアグランドサービス(株) 全日本空輸(株) (株)宮崎銀行	ドールキャピタルマネジメント TOTO(株) (株)安川電機	
就航路線 (2009年7月現在)	羽田＝新千歳 9往復 羽田＝旭川 3往復 羽田＝函館 2往復 羽田＝女満別 3往復 新千歳＝仙台 4往復 新千歳＝新潟 2往復	羽田＝福岡 10往復 羽田＝神戸 5往復 羽田＝新千歳 8往復 羽田＝那覇 3往復 羽田＝旭川 2往復 福岡＝那覇 2往復	羽田＝宮崎 7往復 羽田＝熊本 4往復 羽田＝長崎 4往復 羽田＝鹿児島 3往復 那覇＝鹿児島 2往復 那覇＝長崎 1往復	羽田＝北九州 11往復 羽田＝関西 4往復	
	計23往復(羽田は17往復)	計30往復(羽田は28往復)	計21往復(羽田は18往復)	計15往復	
保有機材	B767-300×3 B737-500×5	B767-300×2 B737-800×9	B737-400×8	A320×4	
決算状況	(2009年3月期)	(2009年3月期)	(2009年3月期)	(2009年3月期)	
業績	営業収入	321億円	423億円	226億円	175億円
	経常利益	7億円	▲23億円	1億円	▲0億円
	当期純利益	3億円	▲20億円	0億円	▲0億円
財務	総資産	109億円	178億円	49億円	49億円
	純資産	54億円	87億円	2億円	8億円
	自己資本比率	50.3%	48.1%	4.7%	17.9%

(参考1) 会社概要 (2009年7月1日現在)

AIR DO

- 運航開始日 : 1998年12月20日
- 事業内容 : 定期航空運送事業 (1998年10月事業免許取得)
- 代表者 : 代表取締役社長 淡路 均
- 本社所在地 : 札幌市中央区北一条西二丁目9 オーク札幌ビルディング8階
- 資本金 : 23億2,505万円

■ 取締役及び監査役 :

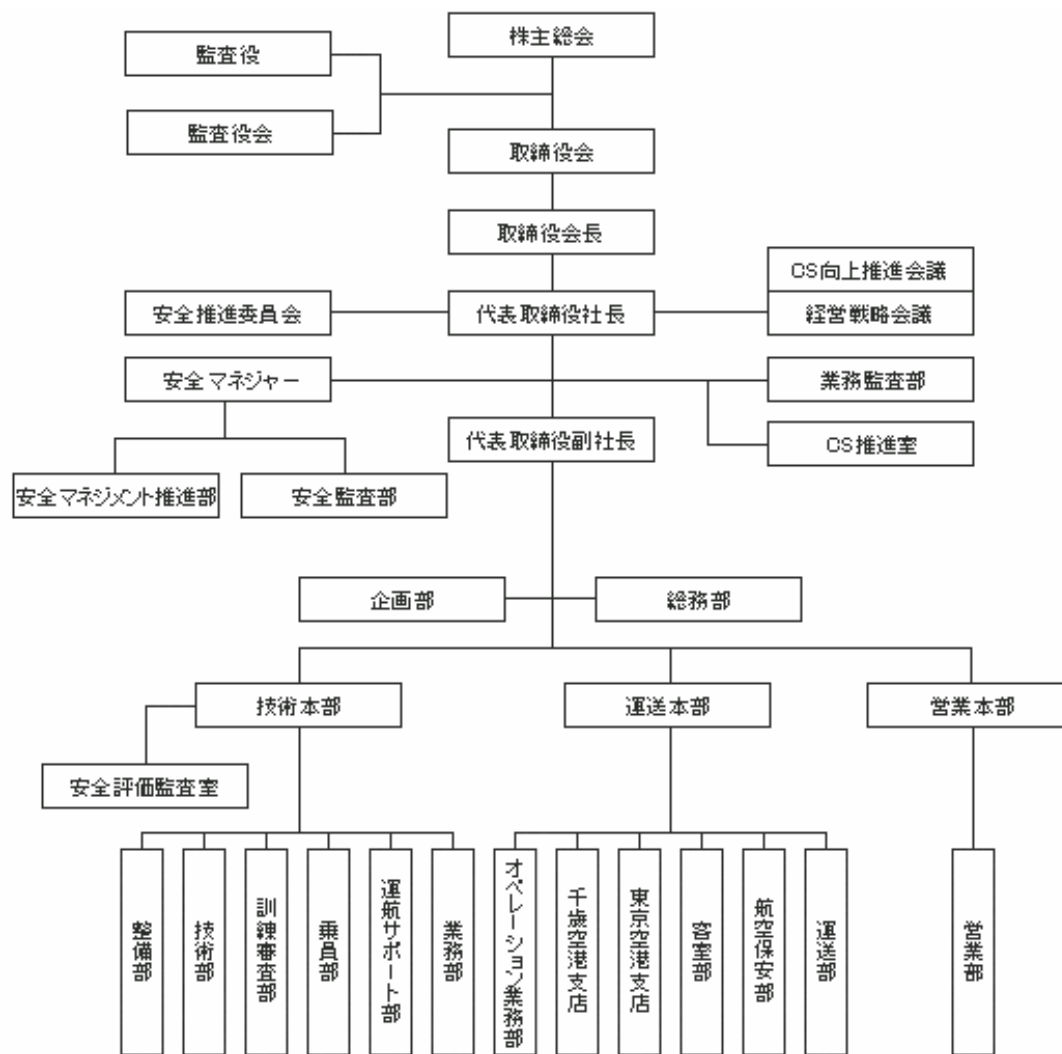
役職	氏名	担務
代表取締役社長	淡路 均	安全推進委員会委員長
代表取締役副社長	小林 茂	全業務総括
専務取締役	吉田 和彦	総務部担当、営業本部担当、運送本部担当
常務取締役	大谷内 吉一	企画部担当
常務取締役	松崎 義邦	技術本部長委嘱、安全統括管理者、安全推進委員会副委員長
監査役	藪下 勝	常勤監査役
監査役	佐藤 幹	非常勤(株式会社札幌都市開発公社代表取締役社長)
監査役	橋本 哲実	非常勤(日本政策投資銀行北海道支店長)

■ 従業員数 :

	人数
一般従業員	443
運航乗務員	92
客室乗務員	191
合計	726

- 運航路線便数 : 6路線23便 (便数は往復ベース)
 東京＝札幌×9便、東京＝旭川×3便、東京＝函館×2便、東京＝女満別×3便
 札幌＝仙台×4便、札幌＝新潟×2便
- 保有機材数 : 8機 (B767-300ER×2機、B767-300×1機、B737-500×5機)

■ 組織図



(参考2) 事業方針

AIR DO

■ 安全を絶対的使命として追求

- ・ 創業以来の高いレベルの安全性をさらに向上させるため、「安全マネジメントシステム」を基礎とした、確固たる安全基盤を構築する。

■ 低価格運賃の提供

- ・ 低コスト運航体制の確立を図りつつ、大手航空会社よりも低価格で利便性の高い運賃を安定的・継続的に提供する。

■ 個性的で質の高いサービス

- ・ フリードリンクやオーディオサービス、機内誌、新聞各紙、北海道図書館など、北海道にこだわった個性的で質の高い機内サービスを提供する。
- ・ 自動チェックイン機の利用、欠航時の対応等を含め利便性の高いサービスを提供する。

■ 「北海道の翼」としての使命

- ・ 北海道に根ざした航空会社として、北海道と各都市を結ぶ航空ネットワークを整備・拡充する。
- ・ 「北海道の広告塔」として、情報発信基地の役割を果たすなど、地域経済の発展に貢献する。

- 創業以来、重大インシデントや事故は皆無。
- 2005年12月01日「安全マネジメントシステム」を新規航空会社として最も早く導入。
- 普通運賃は大手航空会社より大幅に安く設定。
- 割引運賃についても大手航空会社より低価格で、利便性の高い運賃を設定。
- フリードリンク…北海道産玉ねぎを使ったオニオンスープなど。
- オーディオサービス…北海道にちなんだオリジナルプログラムなど。
- ホームページや機内誌「ラポラ」にて北海道の情報を発信。
- 北海道産スイーツ、牛乳など北海道産品の消費拡大、PRに貢献。

(参考3) 路線便数、保有機材変遷

AIR DO

■ 路線便数変遷

※便数は往復ベース

路線	1998年 12月～	2000年 07月～	2003年 07月～	2005年 03月～	2006年 02月～	2007年 12月～	2008年 11月～	2009年 07月～
東京＝札幌	3便	6便	7便(8便)	9便(8便)	9便(8便)	10便(9便)	10便(9便)	9便
東京＝旭川			3便(2便)	3便(4便)	3便(4便)	3便	3便	3便
東京＝函館				2便	2便	2便	2便	2便
東京＝女満別					3便	2便(3便)	2便(3便)	3便
札幌＝仙台							3便	4便
札幌＝新潟								2便
合計	3便	6便	10便	14便	17便	17便	20便	23便

※2003年07月の（ ）内は冬季ダイヤ、2005年03月及び2006年02月、2007年及び2008年11月の（ ）内は夏季ダイヤの便数。

■ 保有機材変遷

機種	1998年 12月～	2000年 07月～	2003年 07月～	2005年 03月～	2005年 06月～	2006年 02月～	2008年 02月～	2008年 07月～	2008年 09月～	2008年 12月～	2009年 04月～
B767-300	1機	2機	2機	3機	3機	3機	3機	3機	3機	3機	3機
B767-200			1機	1機							
B737-400					1機	2機	2機	1機	1機		
B737-500							1機	2機	3機	4機	5機
合計	1機	2機	3機	4機	4機	5機	6機	6機	7機	7機	8機

(参考4) 輸送実績、収支状況

AIR DO

輸送実績

		1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
東京＝札幌	旅客数(千人)	146	421	645	830	722	682	833	970	941	917	975
	搭乗率(%)	83.2	68.7	63.5	71.6	65.2	79.2	82.3	80.4	76.3	76.3	74.5
東京＝旭川	旅客数(千人)						111	161	244	250	229	213
	搭乗率(%)						46.7	64.7	65.8	74.4	72.5	71.1
東京＝函館	旅客数(千人)							6	191	230	227	207
	搭乗率(%)							67.1	69.7	72.7	71.7	69.9
東京＝女満別	旅客数(千人)								17	146	131	123
	搭乗率(%)								59.8	63.7	67.9	71.1
札幌＝仙台	旅客数(千人)											11
	搭乗率(%)											53.0
合計	旅客数(千人)	146	421	645	830	722	793	999	1,422	1,569	1,507	1,530
	搭乗率(%)	83.2	68.7	63.5	71.6	65.2	72.1	78.8	75.7	74.1	74.2	72.7

※2003年02月のANAとの共同運航開始後については、旅客数及び搭乗率は当社販売分を記載。

※搭乗率は旅客数／提供座席数にて算出。

収支状況

(単位：億円)

	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度 見通し
営業収入	20	62	96	119	113	185	222	295	299	295	321	365
経常損益	▲ 10	▲ 17	▲ 31	▲ 29	▲ 16	14	16	21	▲ 3	▲ 4	7	3
当期純利益	▲ 10	▲ 21	▲ 32	▲ 8	12	4	18	22	▲ 7	▲ 8	3	0

※億円未満切り捨て

- 2002年06月 … 東京地方裁判所に民事再生法適用認可申請。
- 2004年03月 … 2003年度決算にて14億円の経常黒字を達成（新規航空会社としては初）。
- 2005年03月 … 再生計画を達成（2005年03月31日）。

■ ANAとの主な業務提携

①コードシェアの実施

- ・ ADO運航便の一定座席数をANAが買取り、ANAの便名・運賃にて販売するハードブロック方式（安定した収入の確保、販売費用の削減、空席リスクの回避）。

②予約システム（a b l e）・販売チャネルの活用

- ・ 予約・発券・搭乗・精算管理の一連業務を、ANAの予約システム（a b l e）にて実施。
- ・ 予約案内業務をANAへ委託（着信応答率の上昇）。
- ・ a b l e 設置代理店でのADO便の予約・販売（販売チャネルの拡大）。
- ・ Anywhere、Anytimeチェックインの実施、自動チェックイン機の活用（旅客利便性の向上）。

③空港ハンドリング業務の委託

- ・ ANAカウンターでの航空券購入・搭乗手続きの実施（取扱窓口の増加、旅客利便性の向上）。
- ・ 旅客手荷物のハンドリング及び貨物取扱いを委託。
- ・ 地方空港においては、旅客取扱業務及び一部運航業務を委託。

④整備業務の委託

- ・ 機材の定期整備・エンジン整備等の重整備を委託（整備費用の削減）。
- ・ エンジン・機体部品等のANAの保有在庫を共有。

⑤その他

- ・ 人材派遣による経営ノウハウの提供。燃油の共同購入、訓練施設の共有化（運航コストの低減）。

■ 運賃設定

当社独自の割引運賃『道民割引』をはじめ、利便性の高い運賃を豊富に提供。
運賃額は、全ての運賃種別において、大手よりも低価格。

(参考) 羽田＝札幌線 運賃額 (2009年7月 多客期 一部期間) (円)

運賃種別	ADO	大手	差異(一例)	備考
普通運賃	29,900	35,600	▲5,700	
往復運賃	27,700	32,000	▲4,300	片道分
バーゲン	10,900～	13,000～	▲2,100	
道民割引	25,000～	—	▲10,600	大手普通運賃との差異
スカイメイト	9000～	10,000～	▲1,000	

※一部運賃種別のみ記載

■ 人材育成

- 安定した経営基盤の強化を図るため、人材確保・育成を継続的に実施。

《新卒者の採用実績》

(名)

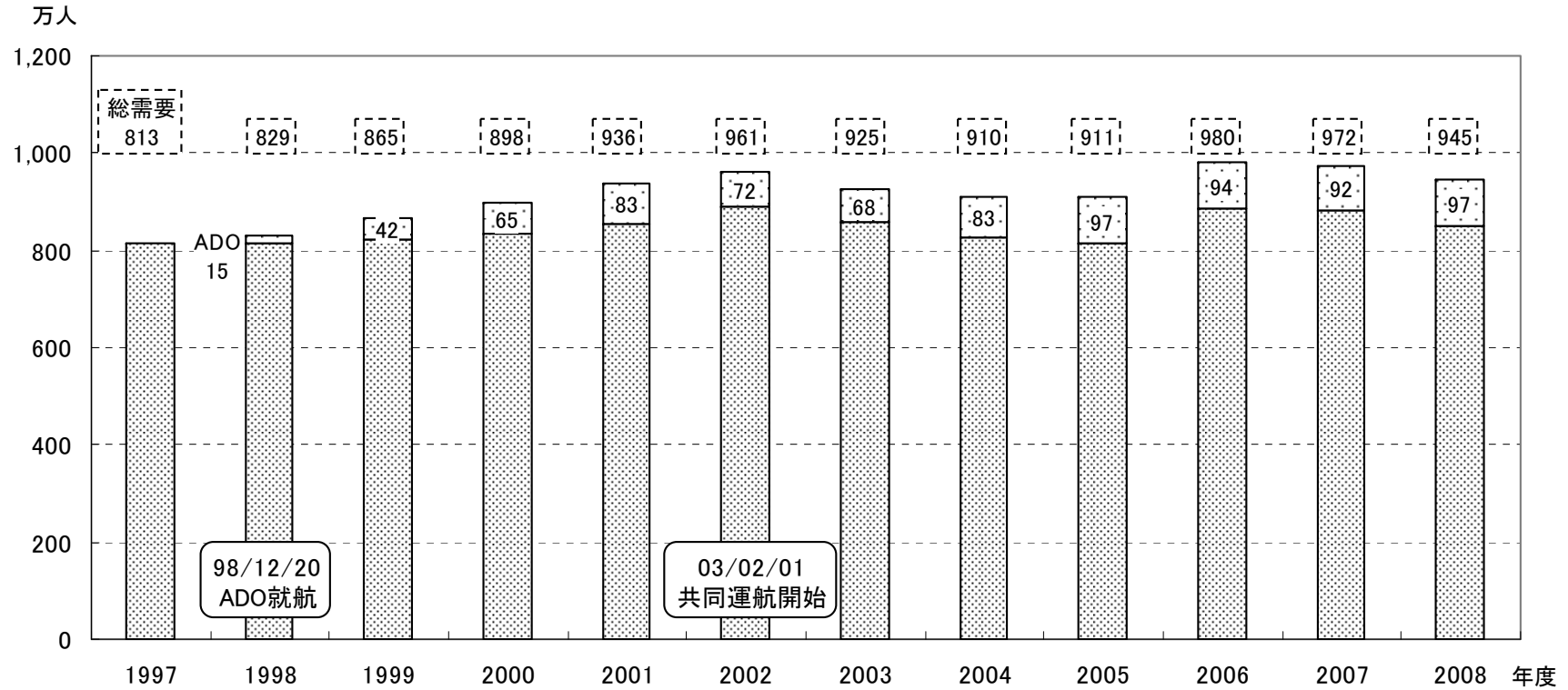
採用年月	採用人数	内訳	
		事務系	技術系
平成16年4月	2	1	1
平成17年4月	4	3	1
平成18年4月	11	5	6
平成19年4月	10	3	7
平成20年4月	13	4	9
平成21年4月	9	2	7

- 既卒者の採用、副操縦士等の自社養成も実施。

- ・ 運航乗務員の自社養成について、現在までにB767は15名、B737は16名、合計31名が自社養成により副操縦士となっている。
- ・ 平成21年度中に、B767で4名、B737で4名の副操縦士養成訓練を実施予定。

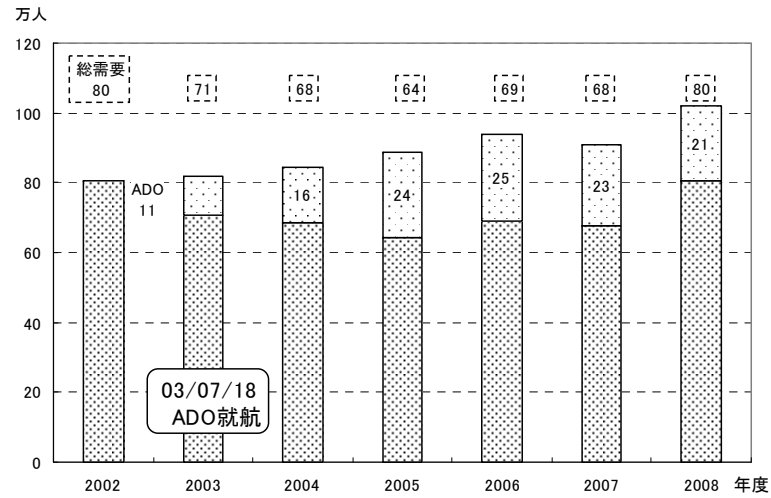
(参考6) 路線別旅客数推移

■ 東京＝札幌

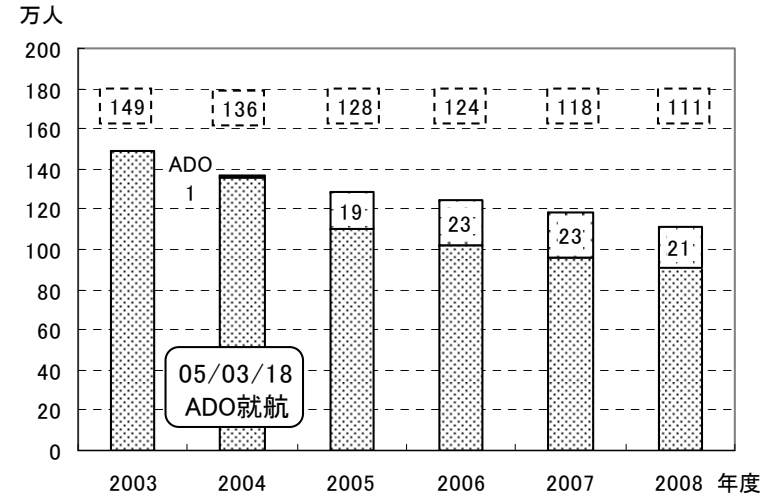


※2003年02月のANAとの共同運航開始後の旅客数は当社販売分を記載。

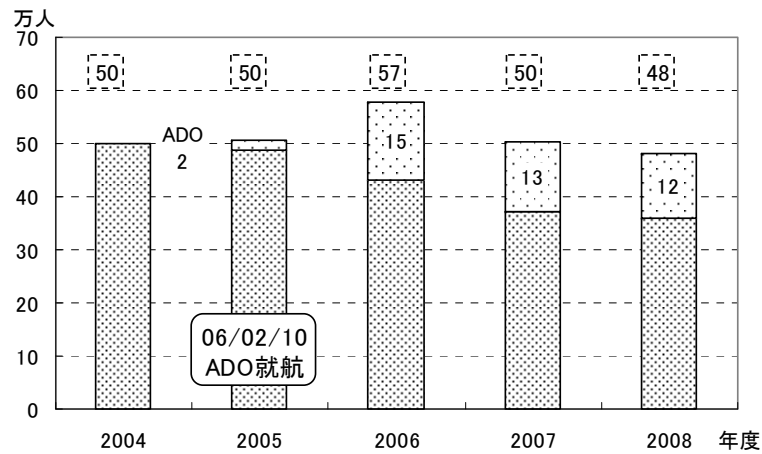
東京＝旭川



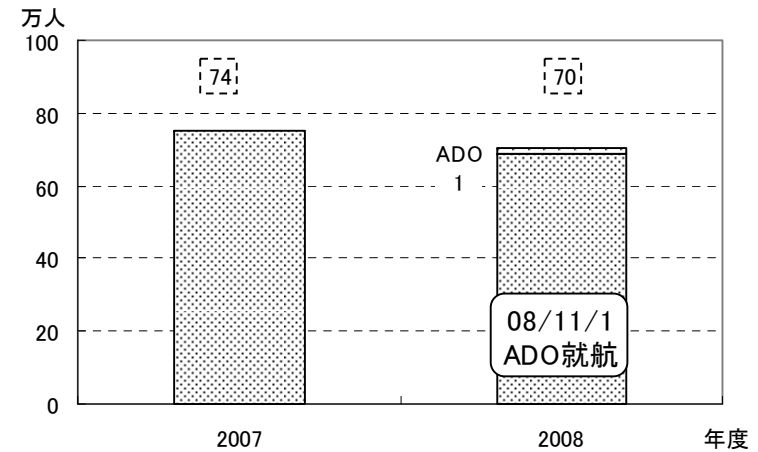
東京＝函館



東京＝女満別



札幌＝仙台



(参考7)「北海道の翼」としての取り組み

AIR DO

■ 航空ネットワークの拡充 (2009年7月ダイヤ)

- 札幌 = 東京線 (1998年12月～) 9便
- 旭川 = 東京線 (2003年07月～) 3便
- 函館 = 東京線 (2005年03月～) 2便
- 女満別 = 東京線 (2006年02月～) 3便
- 札幌 = 仙台線 (2008年11月～) 4便
- 札幌 = 新潟線 (2009年04月～) 2便

■ 北海道の広告塔として

- ホームページや機内誌『ラポラ』にて、北海道の情報を発信
HP年間アクセス数：約600万件、機内誌年間発行部数：約48万部
- 機体に『北海道』のロゴを掲出
- 首都圏における地域と一体となった観光宣伝活動

■ 北海道にこだわった機内サービス

- フリードリンク
 - ・北海道産の玉ねぎを使ったオニオンスープ、北海道産ハスカップティー、コーヒー、日本茶、アップルジュース等
- 機内販売
 - ・サッポロクラシック、北海道生ワイン、オニオンスープ、夕張石炭ビール等
 - ・馬油使用のボディケアオイルセット、由仁ガーデンポップリ、ラベンダーリラクゼーションポーチ、ソメスサドルオリジナルIDケース等
- オーディオプログラム
 - ・北海道にちなんだオリジナルプログラム

